

別記様式(第5条関係)

平成 31 年 4 月 25 日

南国市議会議長

岡崎 純男 様

議員名 岩松 永治

平成 30 年度政務活動費収支報告について

南国市議会政務活動費の交付に関する条例第5条第1項に基づき、別紙のとおり  
平成 30 年度政務活動費収支報告書を提出します。

政務活動費収支報告書

議員名 岩松永治

平成30年度政務活動費収支報告書

1 収入

政務活動費 120,000 円

2 支出

(単位 円)

科 目	金 額	備 考
調 査 研 究 費	54,322	行政視察経費
研 修 費		
広 報 費		
広 聴 費		
要請・陳情活動費		
会 議 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費	8,400	新聞購読料
合 計	62,722	

3 残 額 57,278 円

(注) ・備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

・旅費の額は、南国市議会議員の議員報酬等に関する条例（平成20年南国市条例第21号）の規定に準じ算定する。



政務活動記録簿  
議員名

岩松永治

整理番号	項目	① 調査研究費 4. 広聴費	2. 研修費 5. 要請・陳情活動費	3. 広報費 6. 会議費
年月日	平成30年11月13日(火)~平成30年11月14日(水)			
相手方・調査先等	「原発被害の現状と復興支援について」被災地・浪江町視察			
場所	浪江町 福島県双葉郡浪江町幾世橋大反田7-2			
活動内容等(目的、内容、結果、所感等を記入)	<p>会派による視察を、以下の参加者で実施する。 岡崎純男、岩松永治、浜田憲雄、植田寛、高木正平(5名)</p> <p>○目的、東日本大震災後の復興と支援</p> <p>○内容、7年8ヶ月が経過し、これまでの復興状況、国からの支援、被災地の現地視察</p> <p>○全壊家屋651戸、586戸流出、死者182人(31人不明)、震災関連死423名。町内全域21,000人超の町民が全て避難対象となる。町民の避難先、福島県内70%、約14,300人、県外30%、約6,300人。H29年3月31日、空間放射線量の低い地域について、避難指示が解除、約17,000人いた町民が、現在848人。震災の恐しさを感じた。7年経過して、いまだに復興が進んでいない。浪江町へ着いた時の静けさは、ゴーストタウンのようであった。一度町を離れた町民に帰るべきようには課題が多い。南相馬市の防災、減災対策大まな被害を受けた後の復興の難しさを改めて感じた。南相馬市の防災、減災対策大まな被害を受けた後の復興の難しさを改めて感じた。南相馬市の防災、減災対策大まな被害を受けた後の復興の難しさを改めて感じた。南相馬市の防災、減災対策大まな被害を受けた後の復興の難しさを改めて感じた。</p>			
活動に要した経費	行き先	利用交通機関	積算	金額(円)
	羽田空港	日本航空/往復	19,780	19,780
	JR浪江町	モノレール	490	490
	東京→浪江	新幹線 常磐線/往復	23,540	23,540
	東京→仙台	新幹線 指定席/往復	950	950
	新橋→羽田	京急	562	562
	宿泊費	新妻荘		5,000
	日当	2日間		4,000
	その他			
	合計			
備考				

※活動内容等について、スペースが足りないときは、別途報告書を添付してください。